

## ラグビーワールドカップ 2019™の効果

### 1 大会基本情報について

#### (1) 大会開催実績

- ア 試合開催数 45 試合 ※台風により 3 試合中止
- イ 観客動員数 合計 1,704,443 人 (1 試合平均 37,877 人)  
(前回大会：2,477,805 人 (1 試合平均 51,621 人) ※全 48 試合)
- ウ ファンゾーン 12 都市 16 会場 (合計約 1,137,000 人、過去最高)  
(前回大会：15 会場 合計約 1,000,000 人)
- エ 優勝国 南アフリカ (日本はプール戦全勝、ベスト 8 初進出)



盛り上がる「日本vスコットランド戦」

#### (2) 横浜での試合開催実績

- ア 試合開催数 プール戦 3 試合、準決勝 2 試合、決勝の合計 6 試合 (台風により 1 試合中止)
- イ 観客動員数 合計 401,742 人 (1 試合平均 66,957 人、大会全体の約 23.5%)  
→決勝は横浜国際総合競技場の**最多入場数 (70,103 人)**。(2 位：2002FIFA W 杯決勝 69,029 人)

	日付	試合	観客数	競技場記録
1	9月21日(土)	ニュージーランド v 南アフリカ	63,649 人	
2	9月22日(日)	アイルランド v スコットランド	63,731 人	
	10月12日(土)	イングランド v フランス	台風により中止	
3	10月13日(日)	日本 v スコットランド	67,666 人	
4	10月26日(土)	ニュージーランド v イングランド	68,843 人	歴代 3 位
5	10月27日(日)	ウェールズ v 南アフリカ	67,750 人	
6	11月2日(土)	イングランド v 南アフリカ	70,103 人	歴代 1 位
合計			401,742 人	

### 2 ファンゾーンについて

#### (1) 開催概要

- ア 開催場所 臨港パーク
- イ 開催日数 13 日 ※10月12日及び13日は台風の影響により中止。
- ウ 来場者数 合計 153,700 人、一日平均 11,823 人



臨港パークのファンゾーンには延べ 15 万人以上が来場。ステージコンテンツやファン同士の交流を楽しんだ。

【神奈川・横浜ファンゾーン】

	開催日	時間	入場者数	
1	9月20日(金)	17:00-22:00	8,800人	日本戦
2	9月21日(土)	12:00-21:30	16,800人	横浜開催試合
3	9月22日(日)	12:00-22:00	13,500人	横浜開催試合
4	9月28日(土)	12:00-21:30	14,400人(入場規制有)	日本戦
5	9月29日(日)	12:00-19:30	6,800人	
6	10月5日(土)	12:00-22:00	16,000人(入場規制有)	日本戦
7	10月6日(日)	12:00-19:30	6,600人	
8	10月19日(土)	12:00-22:00	6,900人	
9	10月20日(日)	12:00-22:00	16,700人(入場規制有)	日本戦
10	10月26日(土)	12:00-19:30	13,700人	横浜開催試合
11	10月27日(日)	12:00-20:30	11,100人	横浜開催試合
12	11月1日(金)	16:00-20:30	4,800人	
13	11月2日(土)	12:00-21:00	17,600人(入場規制有)	横浜開催試合
合計			153,700人	

### 3 経済波及効果について

#### (1) チケット販売

販売可能席約 185.3 万枚のうち、約 184 万枚を販売（販売率：約 99.3%、中止の 3 試合を含む）

過去最高の販売率を記録。（前回大会 98%）

#### (2) 大会全体の経済波及効果

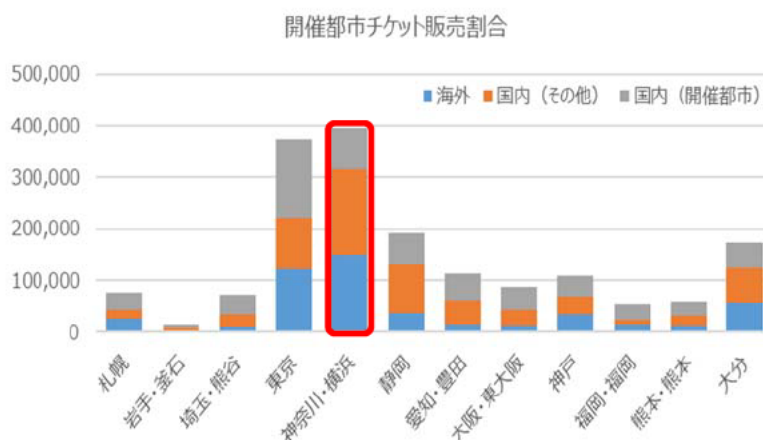
前回大会、大会前の予測より、はるかに大きな数値になっており、過去最大の経済効果。（前回大会 4,372 億円→今回 6,464 億円）

項目	日本円	ポンド (£)	(参考)大会前予測	(参考)前回大会
経済波及効果	6,464 億円	4,309 百万 £	4,372 億円	2,267 百万 £
(内訳)		3,889 億円		
・観戦客等による消費 (特に訪日客の消費：3,482 億円)				
・大会運営費		1,374 億円		
・スタジアム等インフラ整備		1,201 億円		
GDP 増加分 (付加価値分)	3,515 億円	2,343 百万 £	2,166 億円	1079 百万 £
税収拡大効果	412 億円	275 百万 £	216 億円	277 百万 £
雇用創出効果	46,340 人	—	25,000 人	34,000 人

※実消費額や E メールでの調査により直接効果額（需要増加額）を算出し、さらに産業連関表を用いて間接効果をそれぞれ分析

### (3) インバウンド効果

横浜では、他開催都市と比較して、海外観光客、県外観戦客の実数、割合とも高く、インバウンド、国内観光の大きな契機となったと考えられる。また、試合数が多かったこと、会場の大きさにより観戦客数が多かったことから、横浜市の経済波及効果は東京都、大阪府に次ぐ規模になった。



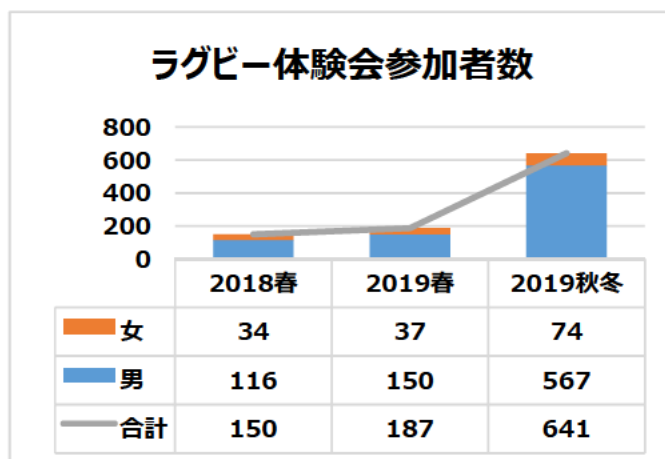
	経済波及効果	GDP 効果	チケット販売	試合数	宿泊消費額
① 東京都	711 億円	293 億円	372,435 枚	8	293.1 億円
② 神奈川県・横浜市	400 億円	211 億円	395,892 枚	6	36.1 億円
(うち横浜市)	361 億円	191 億円	—	-	25.8 億円
③ 大阪府・東大阪市	391 億円	215 億円	86,515 枚	4	50.2 億円
④ 埼玉県・熊谷市	280 億円	148 億円	72,434 枚	3	0.9 億円
⑤ 静岡県	204 億円	112 億円	190,589 枚	4	21.1 億円
⑥ 大分県	199 億円	109 億円	173,605枚	5	38.6 億円

※東京都は組織委員会大会運営費を除く

## 4 ラグビースクール等への効果について

### (1) 神奈川県下一斉ラグビー体験会

神奈川ラグビーフットボール協会が毎年実施している県下一斉ラグビー体験会の参加者数は、ラグビーワールドカップ 2019™開催前の 2019 年春開催と比較し、開催後は約 3.5 倍に増加。

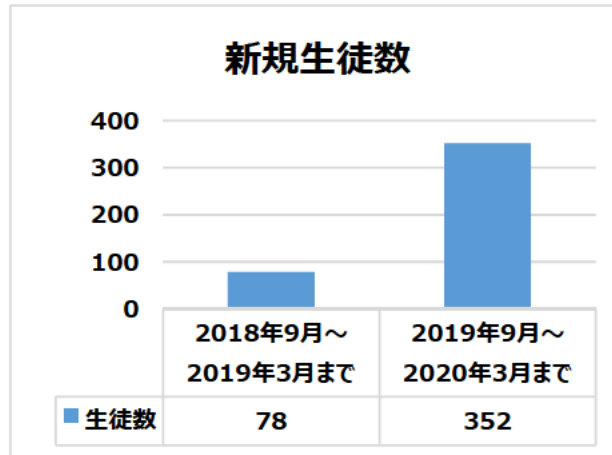


(出典) 神奈川県ラグビーフットボール協会提供資料より作成

## (2) 市内ラグビースクール

### ア 新規生徒数

神奈川ラグビーフットボール協会に所属する市内4つのラグビースクール（グリーンクラブRS、横浜YCRS、田園RS、横浜RS）の新規生徒数の合計は、ラグビーワールドカップ2019™開催前に比べて約4.5倍増加。 ※一部のラグビースクールからはおよその数字で報告



(出典) 市内ラグビースクールへのアンケート調査 (2020年7月) より作成

### イ その他の効果、課題 (アンケート自由記載より)

- ・大会開催前から、新規入会・体験希望、問い合わせが徐々に増え始め、開催中から開催後にかけては、体験会を通じて**過去最高の来場者、新規入会者があった**。
- ・生徒数が増えたこともあり、**安全に練習できる場所の確保が課題**である。